

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	鹿児島県
-------	------

I 学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	鹿児島県日置郡東市来町立上市来小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	0	6	10
児童数	11	20	9	16	12	10	0	78	

II 研究の概要

1 研究主題

豊かな心と未来を拓く基礎学力を育てる教育 ～算数科の指導を通して～

2 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

全学年・算数 児童の理解の状況に差が出やすい教科であり、本校児童の学力調査結果などからも算数の学力定着に重点を置いた指導が必要であると考えたため。
--

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 豊かな心と未来を拓く基礎学力を育てる教育～算数科の指導を通して～ ポイント...児童の実態把握・基礎研究・研究構想、仮説策定</p> <p>研究の見通し 本校、並びに隣接する上市来中学校との小・中連携により、算数・数学科における基礎学力の向上を目指した研究を推進する。1年次(平成15年度)は、先行実践および理論研究を踏まえ、中学校と連携した児童の算数学習実態調査、家庭での学習状況調査、および算数科に関する学習指導の実態調査等を実施し、それに基づき課題把握を出発点として、小・中連携による授業改善の方法や家庭学習の在り方に関する具体的な方策を明らかにする。さらに、策定された具体的な基礎学力向上に向けての取組を、(小中合同の)授業研究や日常的な授業外における実践研究を通して実証的に検討していく。</p> <p>研究の内容・方法 ・「学力」「基礎学力」概念の明確化 評価方法...研究仮説の検証へ ・本校児童の算数科の「基礎学力」実態分析 ・算数科指導の現状と課題の交流による授業改善、ならびに授業外における取組の具体化 ・本校児童の家庭学習状況調査による家庭と一体となった基礎学力向上の取組の具体化 ・小・中連携によって可能となる具体的な取組の策定・実施 ・先行実践の徹底研究</p>
--------	--

<p>テーマ 豊かな心と未来を拓く基礎学力を育てる教育～算数科の指導を通して～ ポイント...研究仮説にもとづく具体的な実践の展開とその検証</p>
--

平成
16
年度

研究の見直し

2年次（平成16年度）は、1年次研究の成果と課題を踏まえての教育課程全般の見直し（算数科の教科課程編成，校時表の見直し等）も含めた検討を行い，授業実践や授業外における具体的な取組に関しては，研究公開等を通して広く意見を集約し改善策を探る。

研究の内容・方法

15年度の研究を通して策定された仮説をもとに実践研究を進める。
仮説1（授業に関して）

子どもの実態を丁寧に捉えた上で，単元構成を工夫し，全体指導と個別指導等を有機的に組み合わせた学習過程を組織することによって，すべての子どもたちの基礎学力を向上させることができるのではないかと。

- ・指導内容（系統性・つまずき等），教材 - 教具（思考の映像化）の研究
 - ・子どもの実態（学力実態・学習への構え）把握
 - ・単元構成，学習過程の工夫
 - ・個に応じた指導方法の研究
- 仮説2（授業外の指導に関して）

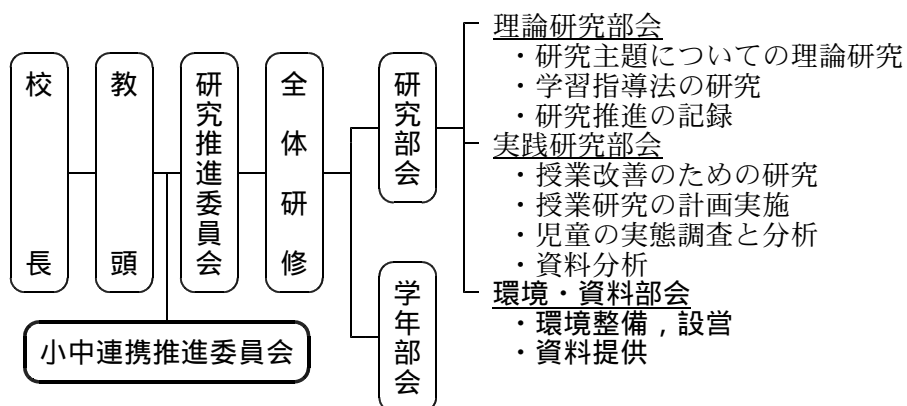
「基礎学力向上タイム」による反復学習や，授業外の補充・発展指導を計画的・継続的に行うことによって，子どもたちが「できる」「わかる」ようになり，学習意欲や自己肯定感を高めることができるのではないかと。

- ・基礎学力向上タイム（月・水・金の1校時）における「読み・書き・計算」の指導内容・方法の改善と工夫
 - ・補充，発展指導（各学年で時間枠を固定）のための指導資料作成
- 仮説3（家庭学習の指導に関して）

家庭との連携により，子どもの基本的な生活習慣・学習習慣を確立させるならば，集中力が高まり，意欲的に学習に取り組む子どもを育てることができるのではないかと。

- ・宿題の内容や与え方の研究
- ・家庭学習の習慣化のための保護者と学校の連携
- ・基本的な生活習慣（見えない学力）の確立

(3) 研究推進体制



研究推進委員会...校長・教頭・研修係・算数主任・各研究部長
小中連携推進委員会...研究推進委員会のメンバーが，中学校のメンバーと月に1回程度会議を持ち，研究の進め方について話し合う。

III 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1 研究の成果

小・中連携による基礎学力実態把握

標準学力検査の縦断的・横断的分析,および小中合同計算力調査の分析から,第4学年段階でのつまずき率の大きさ,計算問題の違いによるつまずきの傾向の違い,学年毎に固有の課題などが浮かび上がり,授業改善のための基礎資料とすることができた。

本校における「理解や習熟の程度に応じた指導」のイメージ

本校においては,小規模校であるという特性,ならびに保護者・児童の意識調査等の結果を踏まえ,「理解や習熟の程度に応じた指導」を2つの場における研究・実践課題とした。

児童一人一人の実態を丁寧に捉えた上で展開される,授業における共通目

標 - 内容に向かっの適切な指導

授業外に行う,児童一人一人の個別的な課題に対応する補充・発展指導

児童の実態に即した授業づくり研究

今年度は,1年生と6年生での実験授業を実施し,授業づくり研究を行った。

1年生「たしざん」では,具体的な操作活動の重要性と共に,算数科における基礎学力の定着・向上という課題にとって,「読み・書き・計算」力を一体的に育てることの重要性が改めて確認された。

6年生「分数のかけ算」では,児童の実態に即して単元構成を行うこと(教科書の配列を修正)によって,系統的・継続的な指導が可能になった。また,学習内容の理解においては,面積図等のシェーマを一貫して活用することが効果的である。

「基礎学力向上タイム」の成果

「読み・書き・計算」力の一体的な向上という課題を解決するために,10月から教科の時間と余裕時数から,60時間(1単位時間=「読み」15分+「書き」15分+「計算」15分)を実施した。「百マス計算」等のドリル学習への児童の評価は,75%が「好き」,25%が「好きではない」と捉えているが,こうした取組が「大切である」(91%),取組により「力がついてきた」(88%)と肯定的に捉えている児童が多い。

小・中連携による情報交換

本校と隣接する東市来町立上市来中との連携は,算数・数学科の学力向上についてはもちろん,児童・生徒の学力を支える「生活」全般を見渡したものとして展開していくことを確認し進めている。相互の授業参観,それぞれが実施する校内研究会への参加,情報交換会,懇親会等を通して,これまで独自に抱えていた課題を,共通の実践課題として解決していく視点が共有された。

2 今後の課題

小・中連携による研究体制の確立と定期的・計画的な研究の推進

各種実態調査の継続実施と分析,課題の明確化・共有化

授業改善のための研究の推進～個別指導と全体指導の有機的関連

「基礎学力向上タイム」における指導内容の充実,ならびに指導方法の工夫

補充・発展指導の具体的展開の仕方

保護者との連携による家庭学習の習慣化のための指導資料作成

豊かな教育実践の創造と結びつきの研究推進

IV 学力等把握のための学校としての取組

- 小・中合同「算数科基礎学力（計算力）」実態調査（4月）
（対象）小2～中3
（目的）計算力の定着度，つまずきの傾向を学年段階毎に明らかにし，小・中学校相互に実践の重点課題を把握するとともに，指導方法の改善を進める。
（内容）小学校段階での計算領域の問題
- 標準学力テスト（CRT）の実施（2月…国語・社会・算数・理科）
- 各単元テストにおける観点別分析（各単元毎）
- 「基礎学力向上タイム」における細かな実態把握（週3時間）
- 児童・保護者の学習に対する意識等の調査（5月・1月）
（対象）全児童・保護者
（目的）児童の家庭学習の実態や，保護者の学習に対する意識，子どもへの関わり方について調査を行い，具体的な手立てを導き出す。
（内容）アンケート調査

V フロントアスクールとしての研究成果の普及

- ・平成15年度東市来町教育研究大会
（日時）平成15年8月27日（水）
（会場）東市来町中央公民館
（対象）東市来町内学校関係職員・保護者
（内容）基礎学力向上に関する取組についてのシンポジウムで研究発表
- ・鹿児島大学教育学部附属教育実践総合センター教育実践フォーラム
（日時）平成16年2月14日（土）
（会場）鹿児島大学総合教育研究棟
（対象）教職員・研究者・学生・保護者
（内容）習熟度別指導に関するシンポジウムで研究発表
- ・研究成果普及のためのHP作成（公開中）
<http://www12.synapse.ne.jp/kamiichiki-e/gakuryoku/top.htm>
- ・東市来地区協議会で研究冊子の作成（平成16年3月完成予定）
- ・平成16年11月に公開研究会を開催予定

次の項目ごとに，該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 ■ 15年度からの新規校 □ 14年度からの継続校
- 【学校規模】 ■ 6学級以下 □ 7～12学級
 □ 13～18学級 □ 19～24学級
 □ 25学級以上
- 【指導体制】 □ 少人数指導 □ T・Tによる指導
 □ 一部教科担任制 ■ その他
- 【研究教科】 □ 国語 □ 社会 ■ 算数 □ 理科
 □ 生活 □ 音楽 □ 図画工作 □ 家庭
 □ 体育 □ その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 □ 有 ■ 無